

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 26日は、低気圧が発達しながら日本の東を東進し、大陸の高気圧が西日本に張り出す。
- 27日は、高気圧が日本付近を通過して日本の東に移動し、低気圧が日本海に進む。
- 28日は、低気圧が発達しながらサハリン付近に進み、大陸の高気圧が西日本に張り出す。
- 29日から30日にかけては、低気圧が日本海西部からサハリン付近に進み、大陸の高気圧が西日本に張り出す。

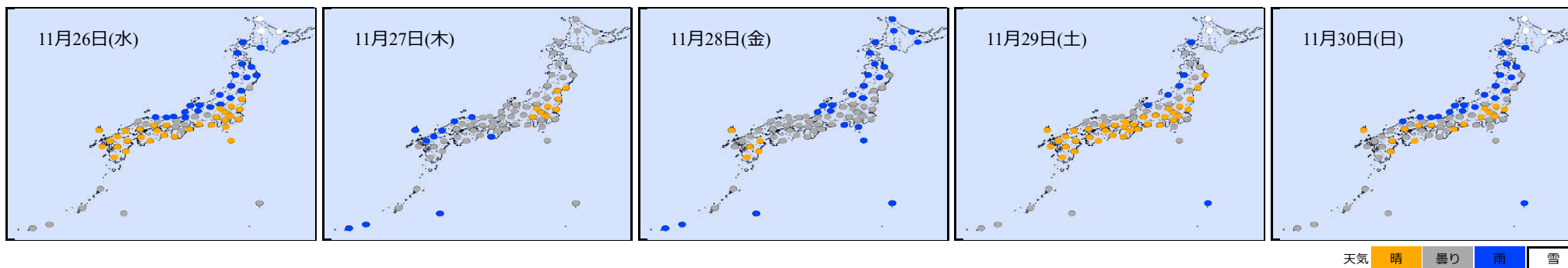
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 26日頃は、低気圧の影響で北日本と東日本日本海側では荒れた天気となり、低気圧の発達程度等によっては大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

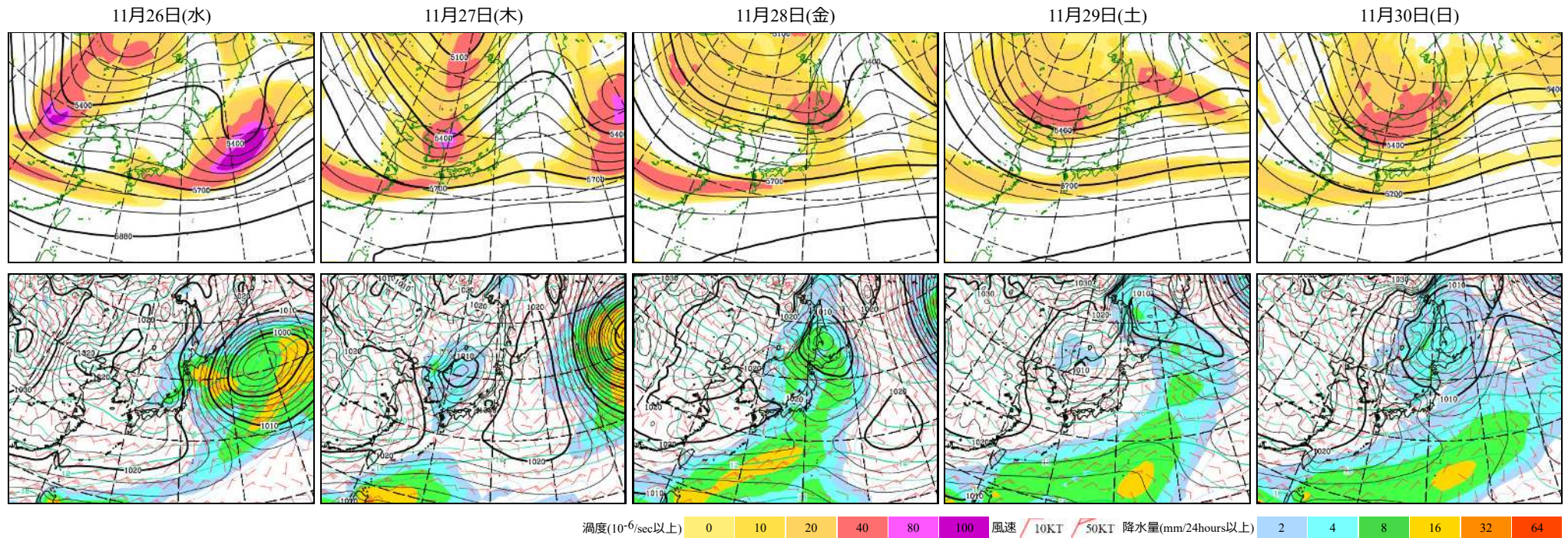
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

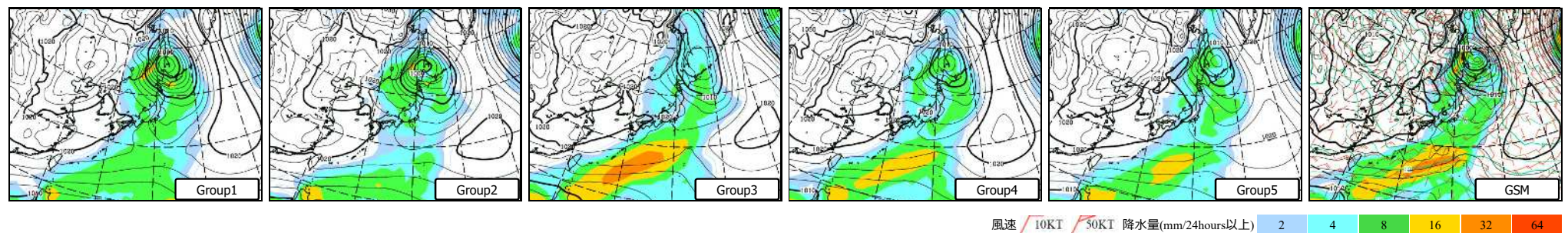


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、27日から28日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく27日と28日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月28日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日は日本の東で発達する低気圧の中心が南に寄り、北日本から東日本付近の等圧線の間隔が狭くなった。27日から28日にかけてサハリン付近へ進む低気圧が発達する傾向となった。このため28日は北日本から東日本にかけての降水確率ガイダンスの値が大きくなった所がある。
- モデル間の差は28日までは小さいが、その後はトラフの進み等にはばらつきが見られる。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく5400mの特定高度線のバラつきが大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。